



堀田晋一朗

昨シーズンの雪辱を果たすべく、ついにファイナル3まで駒を進めた。3月30日と31日は川崎市のとどろきアリーナで東レと対戦した。

今シーズン、東レとはVリーグや全日本選手権で通算3勝2敗と勝ち越している。不思議なもので、全日本選手権決勝やファイナル6の初戦、今回のファイナル3など、事あるごとに対戦している。

昨年のVリーグ呉大会ではスト



ブロックを決めて喜ぶ安永選手①

上り調子 強敵に挑む

レートで圧勝、一方でその次の対戦ではストレートで敗れるなど、力に差がない。「微差は大差」という言葉を聞いたことがあるが、常にどちらに転ぶか分からない実力の拮抗している相手との戦いでは、ほんの少しの差が勝敗を左右する。実力に違いがないからこそ、勝負の流れを的確に判断し、運までも味方に付けていかなければならない。

さて、ファイナル3の結果であるが、サンダーズは見事ファイナルへ進出した。対戦相手はパナソニックだ。今シーズンのVリーグでの対戦成績は1勝3敗である。ファイナル6から確率の上がつてきた攻撃的なサーブ、国内屈指の高いブロックで対抗していけば、必ず勝機はあると踏んでいる。

今年はVリーグの開催期間が長くなり、閉幕後はオールスターゲーム、黒鷲旗と息つく暇もない。そして、いよいよ日本代表チームの活動が再開。9月には広島グリーンアリーナでワールドカップ(W杯)が開催される。サンダーズのメンバーが日の丸を背負って戦う姿もぜひ見てみたいものだ。

バレーボールを通じ、引き続き皆さまに「最高の勇氣、最大の感動」をお届けできるよう突き進んでいく! (JTマネジャー)